

協働のまちづくり協議会（第7回）議事概要

- 《日 時》 平成29年11月19日（日）10時30分～17時
《場 所》 女性センターゆうまつど4階ホール
《出席者》 犬塚 裕雅 会長、長江 曜子 委員、杉浦 利彦 委員、牧野 昌子 委員、
江藤 政継 委員、野村 圭子 委員、門 良英 委員
《傍聴者》 10名

1 開会

2 協働のまちづくり協議会委員紹介

3 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

4 議 題

(1) 平成30年度協働事業プレゼンテーション

各団体及び担当課が、パワーポイント等により、5分間のプレゼンテーションを行なった。

質疑応答

災害時要配慮者支援事業

(団体名 小金原連合町会防災部)

(担当課 危機管理課)

委 員 去年までは栗ヶ沢中学校地域防災委員会という名前で我々は認知しているのですが、今回の小金原連合町会防災部というのは、発展して出来たのか、栗ヶ沢中学校地域防災委員会はあってさらに別の組織としてこの防災部があるのでしょうか。

今回の事業は要配慮者支援ということで、いざ災害になった時に、構成員がシフトを組んで対応されるのでしょうか。

団 体 小金原地区は2つの中学校で大きく分かれていると考えて良いのですが、1つが栗ヶ沢中学校です。もう1つは根木内中学校です。栗ヶ沢中学校地域防災委員会は、栗ヶ沢中学校地域の11町会が繋がって出来たものです。根木内中学校側は7町会あり、そちらはそちらで動いています。ただ、両方とも自分達の区域という形になってしまいますので、全体をカバーする組織が必要です。そこで、連合町会の中に防災部を作りたいという理想が住民の中にあり、2年前にやっと発足したというのが現状です。我々防災部は、両方を統合し、どちらかを

継ぐということではありません。結果的には栗ヶ沢中学校地域防災委員会は防災部に入ってきたという位置づけになっています。これからは小金原全体を視野に入れて地域の防災活動をやっていくということになると思います。

災害時のシフトについては、学校単位で運営委員会を作っていくことになりました。これは防災訓練、準備を含めて最終的には実際に避難所が立ち上がった時に運営委員主体になるチームを作らないといけないということで、実現に向けて、各学校に運営委員会が出来ました。今後は各運営委員会が主体となって避難所運営をしていくことになっていくと思います。

委員 員 では、各避難所に要配慮者の方々を引き入れて、一緒に支援していくという形なのでしょうか。

団 体 要配慮者の扱い方というのは、行政の方で決めたルールがあり、一方で福祉避難所という要配慮者専用の避難所が出来ているものですから、一旦普通の避難所に要配慮者の方も入っていただき、最終的には必要であれば福祉避難所に行っていただくという構造になっています。

委 員 員 まず、松戸の支援学校と協力をということで、そちらの生徒は何人いるかわかったら教えてください。

この「小金原モデル」というものを作って松戸の全地域に広げていくというところは危機管理課の協力、意気込みという辺りが大変重要になると思いますので、担当課としてご意見をお伺いしたいと思います。

団 体 学校の生徒数ですが、この学校は小学校、中学校、高校と3つが統合した形になっており、全体の人数は約200人です。

担 当 課 「小金原モデル」を実現するというので、要配慮者、避難行動要支援者への支援をどのようにやっていくか、市内でもだんだんに関心が高まっています。ただ、町会や防災リーダー、民生委員・児童委員とどのように協力してやっていくか、まだまだその形は出来ていません。また1町会だけではどうにもならない部分もあります。そういったところで、小金原地域全体で、町会、自治会、民生委員・児童委員、地域の福祉事業所等と連携して、小金原の中の要配慮者支援をどうやっていくかというのは、他の所では見られない、素晴らしい部分であると思いますので、モデルを作り、他の地域の独自性を出しながら他の地区でのやり方を作っていければ良いと考えています。この事業は続けていきたいと思っています。

委 員 員 設立が去年の5月ということですが、実績を知りたいです。「小金原モデル」と仰いますが、今の話ではやっていきたいという話だけなので、その辺りが曖昧なのではないかという気がします。

団 体 2年前に防災部自体が設立されたということで、すぐ具体的な事業をどんどんやっていくという体制には、恐らくどのような組織でもなかなかならないと思

ます。組織づくり、防災体制を作っていくと同時に、ある程度の事業を並行して進めてきています。その中で一番わかりやすいものと言いますと、小金原地区は18町会連合の共同の防災訓練を以前から実施していました。ただそのやり方が、防災訓練というより防火訓練に近い中身でしたので、防災訓練の形に持つてくことになりました。その中で、要配慮者の方々が参加した形でやっていくのが1つの目玉になると思いました。支援学校の生徒はほとんど全員が普段から車椅子です。その方々に防災訓練に参加していただく、地域に障害者の方がたくさんいることを知っていただくと考えました。当時の校長先生に話したら、是非協力したいというお話しがあってそれが実現して、その後1回、2回と続いて障害者の方々が参加するような訓練になっていきました。

我々の言う「小金原モデル」が曖昧なのではないかというご指摘もありましたが、これは前例があって進めている話ではないので、まさに曖昧なところを具体的な形でいかに作っていくかというところです。

担当課 具体的に今考えている内容は、大きく4点あります。まず要配慮者名簿です。地域でどのような方々が住んでいるか、把握をどうしようかという部分と、安否確認の体制をどうやって取るか、町会、自治会がメインになると思いますが、その体制をモデルとして出したいです。2点目が福祉避難所です。松戸市が指定している要配慮者の方が避難する施設ですが、福祉施設の避難所の開設が、施設だけではなく、地域住民の協力が必要になります。他にも、在宅の要配慮者の支援や、災害時の要配慮者支援の専門のチームが必要になってくるので、その辺りを考えて形作っていきたいと思います。

外国人市民と日本人市民の多文化共生事業

(団体名 A A I)

(担当課 文化観光国際課)

委員 事業計画に外国人の留学生と日本人の大学生15人程度で行うワークショップとありますが、市民、子ども等に対してはどうするのですか。今回は学生ですが、いずれはそういうことも含めて広げていくのでしょうか。

協働作業の演劇的手法について、どのようなことをやったらどのような効果が出るのでしょうか。

団体 外国人留学生と日本人大学生からスタートしたいと考えています。まず実験的にやってみて、どのような効果が出てどのような問題点が出てくるのかがわかってくるので、それにしっかり対処した上で、市民向けに広げていきたいと、長期的視点で考えています。

演劇的要素についてですが、疑似体験をすることが演劇の第一特徴であって、たとえば誰か全然知らない人間になってみる。そうすると知らない人間を演じ

るといことは、知らない人間が当たり前だ、常識的だと思っていたことを振り返ることになります。すると、自分とは思っていたことが違う、こういう役割の人はこういう考え方をしている、自分が思っていたことはこうであると気づくのです。そのギャップを見ることによって、自分が常識的に行動をしていたということを振り返る。そこを疑似体験してもらいたいと思っています。それで、演劇的要素にしました。

委員 予算計画の中で、撮影用の機材を計上していますが、撮影したものはどのように活用されるのでしょうか。また、イベント外部スタッフ謝礼とありますが、どのような方を想定しているのでしょうか。

団体 撮影用の機材に関しては、ワークショップをしている状態を撮影し、振り返りの時間で使い、気づきにつなげたいと思います。また記録として、参加者の同意を得て、問題なければ、YouTube 等にアップして、松戸市からの発信という形でできれば良いと考えています。

スタッフについては、演劇的要素がありますので、演劇に関わっている方にお手伝いをお願いしようと思っております。

委員 ワークショップ参加者が一般市民というよりは外国人留学生という話がありましたが、その方々にどう告知して、なおかつ参加者を集める計画になっているのでしょうか。

団体 外国人留学生については、市内 4 大学にご協力いただこうと思っており、告知に関しては市のホームページを含めて検討中ですが、個別に各大学に事業内容を説明させていただく等、具体的な行動を考えているところです。

会長 担当課にお聞きしたいのですが、この事業をやることによって、3年後どのような状態を思い描いていますか。

来年度は実験的に外国人留学生と日本人大学生がワークショップを一緒にするということがわかりましたが、得られた結果をどのように展開していくのでしょうか。このままでは 30 人、60 人のワークショップを開いて終わってしまうような気がします。結果をどのような形で地域、社会に展開していくのか、年度内でどういう考えをお持ちなのかをお聞かせください。

担当課 現状において外国人が増えているという状況がありますので、その中で市民と在住外国人の方がどうやって交流したら良いかを模索しています。ただ単に交流してくれと言ってもなかなか交流することは難しいので、演劇手法を通じて交流する 1 つのきっかけを作れたら良いと思っています。ただ演劇を 1 回だけやるということではなく、まずは外国人の留学生と日本人の大学生のワークショップから始めてみて、演劇の手法を通じて異文化の理解をする。効果的であればその後自治会、町会等に、こういう感じならば交流が出来るのではないかと働きかけ、そういった活動を地道に行い、身近にいる外国人の方と日本人の

方が交流できる数を増やしていければ良いと考えています。

- 団 体 我々の希望もほぼ一致しておりまして、短期的な目的、目標として、参加して良かった、新しい発見があった、と思ってもらいたいです。私も大学で教えているのですが、学生は留学生や外国人に対して怖いイメージが強いようなので、そのイメージを崩してもらいたいです。同じ人間なんだ、くらいの感じで思ってもらえる、まずそこが短期的な目標です。長期的な目標は、先程担当課が言ったように、自治会の方に広げていきたいです。希望というか夢を持っているのですが、来てくださった自治会の方々がそういうワークを自分達でできるようなれば、どんどん広がっていくのではないのかと思います。演劇的ワークというものをきっかけにして、広げたいと思っています。

公共サイン改善事業

(団体名 都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会)

(担当課 都市計画課)

- 委 員 事業で得られた成果を実際に市や他の公共施設にフィードバックをする等、何か作戦はありますか。と言うのも、公共サインだけではもったいない話で、将来民間等に波及するというような影響も考えているのか、その辺をお聞きしたいと思っています。
- 担 当 課 まず市へのフィードバックですが、当課は景観の業務の中で市内の調整会議という、たとえば、公園緑地、土木系の道路、観光、環境、建築等のさまざまな部署が集まった会議体を持っています。その会議に市民の声をフィードバックし、ガイドラインの基礎資料になるよう、さまざまな観点をお互いに交換しながら前進していきたいと考えています。
- 団 体 公共サインの改善を通して何を実現したいのかについては、松戸の住みやすさ向上や景観の向上ですので、公共サインの改善だけではそういった目標は果たせないと思っています。地域の住民の方々との連携を通して公共サインだけではなく民間の巨大広告物の話等まで広く考えて行きながら進めていきたいと思っています。
- 委 員 まず、昨年度までの市民活動助成事業では、市民参加が弱い印象を持っています。その中で、今回は公共サイン定期便という形でもっと広く市民に伝えるとされていますが、定期便とはどのような物か、サイズや部数はどれくらいか、また印刷経費等が計上されていません。どのように考えていますか。またワークショップをさまざまな地域で始めるということで、地域住民の参加をどのように促すのでしょうか。市民が参加をしていくということが今回の協働事業の肝だと思っています。
- 団 体 公共サイン定期便の内容に関してですが、ご指摘の通り、去年までは市民を単

発イベントで公募しても、なかなか我々の活動が周知できていなかったのも集められなかったのですが、この定期便を通して定期的に公共サインの情報を発信していくことで、その裾野を広げたいと考えています。内容ですが、まずは公共サインに関する基本的な情報を入れます。たとえば歴史、役割、種類等に関する情報の他に、松戸市における特徴的なサイン、そのストーリー、たとえば設置された記録、インタビュー、そういったものを通して、サインに関する理解を深めていただくことを想定しております。これは紙媒体だけではなく、いろいろな方に発信したいので、web 版も想定しています。Facebook 等、簡易的な媒体を活用していきたいです。

発行部数はまだ検討しきれていないのですが、様子を見つつ増やしていきたいと思っています。現在活動の中で市民と連携しているので、最初はそういった方々を中心に配布し、合わせて、都市計画課のほうで関連する建築、景観関連、民間の会社等への配布を考えています。印刷に関する経費が計上されていないというご指摘でしたが、印刷は我々でやることを想定しており、経費としては消耗品費として紙とプリンタートナーだけ今回計上させていただきました。

ワークショップの地域住民の参加は、各回 20 名を想定しており、「水とみどり」と歴史の回廊マップ」に合わせたエリア分けてワークショップを行ないます。参加の公募方法ですが、公共サイン定期便での広報、web 版への投稿、広報まつどへの掲載を考えています。

委員 非常に期待しているのですが、スケジュール感が鈍い気がします。それから市の担当として予算化を考えているかどうか教えてください。

外部との連携について、市だけの公共サインなのか、市には当然都市計画がありますが、国や県と重なる部分もあると思いますので、考えを教えてください。スケジュール感につきましては、事業計画の今後の展望で「東京オリンピック・パラリンピックを見据えて」と書かれているのに報告が出るのはおそらく 2021 年の終わりとなると矛盾しますので、その点をはっきりしていただきたいと思っています。

担当課 予算化の話と、国、県表示物のご質問についてお答えいたします。まず予算化についてですが、景観作りの課題として、いろいろな壁がありますが、今回こういった取り組みを実現することによって優先度が高まり、予算化に対して積極的に取り組めるものと考えています。実際には都市計画課は設置まで携わるわけではないのですが、先程の会議で、設置に関して直接関わる部局にも働きかけができます。国、県についてですが、景観行政を担っている立ち位置から、そういった表示物に関してもご協力いただけるよう申し入れをする機会がございますので、協力を仰げるものと考えております。

団体 スケジュールに関する質問に回答いたします。2020 年に東京オリンピック・パ

オリンピックが行われるということで、松戸に新たな来訪者が増えるということ想定していますが、公共サインを一気に改善するというのではなくて、そういったことを見据えて、公共サインを通して地域のホスピタリティを見直す、意識の底上げを2020年までにしていきたいと思っております。

子どもたちがつくる青少年会館 居場所事業

(団体名 だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会)

(担当課 生涯学習推進課 青少年会館)

- 委員 青少年会館にいつも通ってそこで遊ぶ、勉強するお子さんのうち、顔が分かるお子さんは何人くらいでしょうか。
- 担当課 時期にもよりますが、平均して30、40名遊びに来ています。夏休みは延べ人数ですが100人を超える日もあります。そのうち、今までは顔馴染み同士というのが10名に満たなかったのですが、今回夏休みに19回の教室をやったり、文化祭の準備を手伝ってくれたことにより、20名くらいの子供達がそれぞれ顔馴染みになっているという感覚です。
- 委員 青少年会館があって、そこに自転車や徒歩で通えるお子さんが利用するのでしょうか。
- 担当課 親御さんの送迎なく自分達で通って来る子が対象になっています。だいたい小学校で4、5校くらいの子供達が通ってきているのですが、すぐ子ども同士仲良くなっていると思います。
- 委員 ここで育成していく人材を市内に広げて行くというか、広がっていく可能性等はいかがでしょうか。
- 担当課 リーダー等の人材の層が少し薄いと我々も感じていますので、今回居場所事業の中で子どもに関わる担い手育成プログラムも行っています。今年は3回講座を行い、延べ人数83名の、主に中高生に参加いただきました。その後も夏休みにお手伝いをしてきている高校生もいました。次年度以降も引き続き力を入れていき、それが市内に広まると良いと思っています。
- 団体 どのように広がっていくのかというところで、当会は、日々地域の中で、青少年会館の近辺だけではなく、各地で活動している会員もいますので、そういったところで担い手になっていってもらえれば、効果を補強できるのではないかと考えています。
- 委員 これは私だけの感想かもしれませんが、上から目線で子ども集めて「何やる？」という感じに見えます。子どもの自主性を大事にした事業にしてもらいたいです。
- 団体 今回のボランティアの養成のところでアピールが足りなかった部分があるかもしれませんが、まず子ども達、特に年下の小学生を中心とした子ども達が自発

的にやりたいことにどれだけ寄り添えるか、そこをどれだけ引き出せるか、その視点を大事にして取り組みを進めています。教える側には、テクニックを教えるだけでなく、交流を大事にしてほしいとお伝えしています。また共同制作、写真に写っているのは完成した絵ではありますが、設計図等は特になく、当日来た子ども達が自分達で作っていく中で最終的にこういった形になっている、というような例です。ご指摘、ご心配の通り、一方的に技術を教えて子ども達の創造性が損なわないよう、むしろそこを広げられるよう取り組んでいることを改めてPRできると思います。

会 長 担当課へ質問です。今期が2期目になりますけれども、たとえば2年後には青少年会館をどのような状態にしたいのかを教えてください。

担当課 今は我々や子どもフェスティバル実行委員会が中心になって実施していますが、リーダー達が中心になって子ども達と遊んでくれるような状態になってくれることを目指しています。

会 長 青少年会館としてその状態になっていくために、特に気をつけたいことや、配慮しておきたいことがあれば教えてください。

担当課 青少年会館とリーダーの関わり方です。リーダーとなった子達のサポートが出来れば良いと思っています。リーダーが子どもたちにどう接したら良いかをテーマに、セミナーや講演等を行って行けたらと思っています。

会 長 配慮の必要な子ども達に対する関与の仕方を教えてください。

担当課 今回3回程講演、セミナーをした、と申しましたが、その中で子どもとの距離感であったり、関わり方という内容もセミナーに盛り込んでおりますので、そういった形で考えています。

《昼休憩》

(2) 平成30年度市民活動助成事業プレゼンテーション(スタート助成)

各団体が、パワーポイント等により、5分間のプレゼンテーションを行なった。

質疑応答

音楽活動によるまちの活性化事業

(団体名 松戸合唱まちづくり同好会)

委 員 1回の、特に施設における演奏会はだいたい何分くらいで行なっているのでしょうか。

予算書の予算外のほうに、「講師の謝礼 外部講師が5回+定期演奏会」となっていますが、外部講師はどのようなタイミングで来られるのでしょうか。

説明の中に「閉じこもりの高齢者も」という話がありましたので、具体的にど

ういう形でどうやって呼び込むのか、その方法を教えてください。

団体 1回1時間を目途に活動しています。その中で正味50分、歌を歌ったり、皆と一緒に歌ったり、休憩時間でバルーンアートをしたりして、楽しんで時間を過ごしています。

講師の件は、年内20回を予定していますが、先生を呼んでのボランティアが年5回、あとの15回は部員で対応しています。部員でピアノを弾ける人がいますので、キーボードを弾いて講師がいなくても良い状況に持って行っていきます。当会が重点を置いているのは、来年度閉じこもりの高齢者をもっと連れ出すということで、そのような人達が来てくれるためにどうしたら良いのか、計画しています。その中でも3月にまつど市民活動サポートセンターの支援指導を受けて音楽祭を開催する計画を立てています。また地域包括支援センターに支援、指導をいただいたり、音楽祭を数回開催して高齢者を引っ張りこむ等を予定しています。

委員 地域包括支援センターの方々との連携とは、具体的にどのような形で進めていますか。松戸市は広いので、拠点を決めているのか教えてください。

団体 我々の大半は生涯大学の学生、OBです。総合福祉会館に学校が入っており、会館に地域包括支援センターや社会福祉協議会等も入っていますので、情報が得やすいです。現在、矢切の地域包括支援センターとどうしたら良いか検討している最中です。

会長 発足以来、かなり密度の高い活動をされているのがよくわかりました。その上で、なぜ今回助成金に応募されようと思ったか、その理由をお聞かせください。

団体 ますます発展させるために充実した楽しい活動をしたい、市の助成金をもらうことによって、生き甲斐や励みにつながるのではないかと思います応募しました。

委員 部員が40名ということですが、毎回のステージでは何名くらいの方が活動されているのですか。

団体 団体の約65%です。施設慰問等のイベントでだいたい1回にあたり平均15~16人が参加しています。

委員 部員の方が約40名ということですが、新規加入者はどの程度いらっしゃるのでしょうか。

団体 毎年十数人入り、逆に都合で辞めた方も数名います。毎年14~15人増えています。

笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業

(団体名 浅間台笑劇研究部)

委員 今のところ訪問等を無料で行なっていますが、続ける上では収入ということを考えなくてはならないと思います。たとえば将来は年1回くらい有料公演する

等、具体的な考えはありますか。

団 体 今ご説明した活動以外に、部員がいろいろな芝居を観に行っており、それを参考に活動しています。今年、他の劇団を見に行きました。確か入場料1,000円で、1回限りの公演でしたが500人位の方が集まっていました。目指すところはそこだと思っています。いずれはお金を払ってでも観に行きたいと思ってもらえるようなお芝居をしたいと思っていますが、ここ1年、2年ではまだ無理だと思います。

委 員 大道具、小道具を助成金から支出されていると思いますが、今具体的に何が揃ったかということをお聞きしたいです。あと、事業計画書の事業内容PRについて、具体的に教えてください。

団 体 頂いている10万円のほとんどが大道具、小道具、舞台の衣装代です。新しいプログラムを開発して、全部揃えるとほとんど使い切ります。

PRについては、総合福祉会館が活動拠点ですので、ボランティアセンターで、ボランティア登録し、同センターにPRするのが主です。

委 員 通常の皆様の活動、たとえば月に何回くらい練習しているのでしょうか。また高齢者施設が主な公演場所ということですが、さらに広げて、たとえば子どもたちの所や地域の食事会等皆が集まるサロンでの公演は考えていますか。

団 体 社会福祉協議会の会食会に参加し、食事後小一時間の芝居を楽しんでいただくといった活動をしています。練習の回数は大体平均して月2回です。11月に毎年生涯大学の学園祭があり、そこで新作発表をするのですが、その時期は最低でも毎週1回の練習をします。

お子様のために何かできないかということですが、難しい部分も有ります。これは脚本、シナリオを作る方の責任もあるかもしれませんが、また子ども向けの部分を別途作らないと、やりにくいのではないかと考えています。

今年前半ずっと上演していたのが、浦島太郎をテーマにして、浦島太郎に各時代を案内してもらおうというストーリーでした。大体パロディにすると子どもの動画を大人が楽しむようなパロディになってしまうのですが、確かに仰るように子ども向けにも上演してみたいという気持ちはあります。

委 員 社会的な課題、たとえば「オレオレ詐欺」の寸劇等を期待します。町会、自治会等に売り込んで、活躍の場を広げてはいかがでしょうか。

団 体 昨年、忠臣蔵の演目の中でオレオレ詐欺を取り上げました。

無塩パン普及事業

(団体名 数値調理会)

委 員 無塩パンということで、この前娘から、たまたまパン屋で買ったパンが塩を入れ忘れて出来たようで不味かったという話がありました。少しの塩でもあるな

- して随分完成に影響があるようですが、今提案されている無塩パンというのは単純にパンを焼く時のレシピから塩を抜くだけなのか、あるいは美味しく食べるために何か工夫をしているのか、企業秘密でなければお教えてほしいです。
- 団 体 詳しくはないのですが、牛乳の量を増やすとか、練り加減ですね。美味しいと言えるかどうかわかりませんが食べ飽きないくらいの物は出来ます。
- 委 員 家庭で自分で作れるようになるには、ある程度器具を揃える必要があると思いますが、結構な設備投資になるのでしょうか。
- 団 体 オープン等、全部揃えていけば 10 万円近くかかると思います。
- 委 員 実習や参加者の募集については、具体的にどうお考えですか。
- 団 体 昨年度に試食会をやるよう意見をいただき、今年度実施しているのですが、その時の経験から、やはり広報まつどが一番有効です。チラシを市の各施設に置くのも効果があります。ただ、やってみてわかったのですが、まつど市民活動サポートセンターは、歩いて来られる方なら参加費 500 円でも問題ないと言うのですが、矢切から遠い地域の方は交通費の方が高くなってしまいますので、今度はまつど市民活動サポートセンター周辺でチラシを配ろうと考えています。
- 会 長 事業の目的の中に、金型を団体の方で買って使用して、その後使用した金型を公共施設に寄贈するとありますが、これはどういう意味か、市民が実際使うのか、想定をお聞かせいただけますか。
- 団 体 まつど市民活動サポートセンターの調理室を利用しているサークルがパンを焼いてくださることに期待しています。
- 委 員 無塩パンプラス素敵なランチパーティとか、オープンサンドパーティとか、もともと貴団体が普及されている「母の味」であったり、孤食をなくすだとか、市販の物だけを食べて健康を害さないようにとか、そのような配慮に上手く役立つような形で交流ができるイベントをまつど市民活動サポートセンターでされたらますます広がるのではないのでしょうか。
- 団 体 そのような考え方を持って行きたいと思います。
- 委 員 塩分控えめというのは日本人が興味を持っているところで、売られている商品も減塩味噌、減塩醤油等がありますね。ですから、「無塩パン」と言わず「減塩パン」と言って打ち出していても良いのではないのでしょうか。
- 団 体 減塩の方が広がりは大いだと思います。無塩パンは挑戦レベルが高すぎるので、減塩パンでいきたいと思います。

「甚左衛門の森」保全育成事業

(団体名 松戸里やま応援団 「甚左衛門の森の会」)

- 委 員 基本的には囲われていて誰でも入れる形ではないと思いますが、定期的に一般の方も集めて手伝ってもらおう等の方法を取り入れているか教えてください。

- 団体 今年の6月から始めたのですが、第2、第4水曜日午前中、月2回活動しています。来年以降、日にちを決めて、一般市民、子どもたちが参加できるようにしていきます。
- 委員 では、今のところ一般の方には声をかけていないということによろしいですか。
- 団体 はい。
- 委員 松戸の里やま応援団という大きなネットワーク組織があり、新たに甚左衛門の森での活動ということで、今14箇所そのようなところがあるということですね。松戸は個人が所有している森が点在していて、そこを大事にして地域の人達がそこで癒されていると思いますが、他にどのくらい市内にそういった森が点在しているのでしょうか。
- 団体 我々は市役所の人間ではないのでわからないのですが、市役所に、市内に森がどれくらいあるか聞きましたら、1ha前後の森が十数箇所まだあるそうです。そのうち我々が8箇所を見に行き、地主との折衝で使わせていただけるということで、甚左衛門の森を選びました。
- 委員 現在のところ所有者の意向で何とか活動が成り立っていて、税法上森林は優遇措置が受けられるため今に至っていると思いますが、今後相続等が発生して現状維持が危ういという可能性もあるので、何か対策はあるのでしょうか。場合によっては募金活動をして買い取ってしまうとか、大きな話になりますが。
- 団体 所有者の息子さんが、永遠に継いでいきたいという意向と聞いています。出来るだけ我々も活動を継続的に続けていただきたいということで指名を受けています。
- 委員 「里やま応援団」の会は、市民活動助成を受けて活動のスタートを切られた団体がいくつもありまして、それぞれの森に整備する道具が必要だということはおわかりますが、何か共用で使える物や、道具を置いておく小屋等に関してはどのようにお考えでしょうか。
- 団体 一部国の助成を受けることができ、物置小屋を設置しています。資機材は高価なので、追って他の団体等の協力を得て整備していきたいと思います。それまでは「里やま応援団」の仲間に借りたりしていきます。
- 会長 この会は皆様14期の方々が中心になってチームを作られているわけですが、来年度、あるいは今年度も含めて、14期以外の市民を会に巻き込む努力は具体的にどのようにされているのかをお聞かせください。あるいは、「チーム14期」で頑張っていくのか、どちらの方向で考えているのでしょうか。
- 団体 今年団体を立ち上げたところなのですが、今は知り合いや森に関心がある方に声をかけています。オープンフォレスト等に向け、パンフレット等を作っているところです。広く知っていただいて、機会があるごとに募集をかけていこうと思っています。

- 会 長 どうしてもこのような活動は技術が必要になり、わかっている者同士でついつい塊になりがちと見受けられますが、今の話ではオープンにして、関心がある方がいればいつでも受け入れる姿勢であるということで理解してよろしいでしょうか。
- 団 体 はい。

地域猫ってなんだろう？ 野良猫トラブルをなくそう事業

(団体名 動物福祉団体いのち)

- 委 員 今年度映画を上映されて、既に 100 名の方々にご覧いただいているということでしたが、今年度の事業についてどのようにされたのでしょうか。次年度は会場や上映権に助成金が充てられるそうですが、今年度について教えてください。
- 団 体 費用の出所という理解でよろしいでしょうか。それは私が会社勤めをしております、私の給料から出させていただきました。
- 委 員 では無料で 100 名の方がご覧になったのですね。
- 団 体 はい。
- 委 員 貴会は構成員 5 名ということですが、活動のこれからの広がりと言いますか、支援者や、地域猫の理解者の養成という面ではどのようにお考えでしょうか。広がりがないとやはり素晴らしいことでも継続面が難点ではないでしょうか。
- 団 体 私も仲間が欲しくていろいろと頑張りました。やってみて初めてわかることがあります。猫のことは誰かにやってほしいという人があまりにも多いです。自分からその活動をやっていこうという方は 10 人に 1 人いるかいないかです。しかしないわけではありません。このような活動をしている関係で、養成というよりすでに活動している方、1 人で独自に活動している仲間が幸い集まってきました。その方々にそれぞれご専門があります。たとえば捕獲が上手な方がいます。今月の 26 日に相談会をまた開くのですが、たくさん予約が入っているので、その方々の相談に乗っていただく予定になっております。もちろん、一緒にやったださる仲間を少しずつ電話等で勧誘していこうと思っております。
- 委 員 たとえば松戸市内で野良猫は大雑把でこれだけいる、その中で去勢手術を受けているのは何匹程度か、データがあれば教えてください。
- 多岐の方に地域猫という概念を広げたいということですが、たとえば上映会に参加した方は、その段階で何か出来ることがあるのでしょうか。
- 団 体 松戸市の野良猫の状況、避妊去勢手術がどれだけ進んでいるのかについては、野良猫の状況は私では数が把握できません。ただし、限定的な数字にはなりますが、松戸市で補助を行っています。その補助金の今年度の予算が 139 万円だったそうで、雄、雌、妊娠雌で少し金額が違うのですが、雄の場合 5,000 円、雌の場合 7,000 円、妊娠していたら 9,000 円というオーダーで補助金が出ます。

去年の予算と同じくらいの金額が消化されましたから、110匹くらいの猫が避妊去勢手術を公的には受けたと言えるかと思います。

映画を見た方が出来ることについてですが、その方の置かれている状況で出来ることはたくさんあります。たとえばお金だけ出せる人、仕事をしていなくて時間がある人、車の免許を持っている人、捕獲が上手な人、その猫の近くに住んでいて餌やりが出来る人、皆出来ることです。一つひとつを持ち寄れば、個々の負担も軽くなりますから、グループを作ってくださいと強くお願いしています。

委員 地域は幸田ですか。そちらを中心に活動されているということによろしいですね。

団体 幸田地域猫の会という、北小金駅を挟んで本土寺側のエリアで活動している会の会員にはなっておりますが、私の活動はこの映画の上映がメインになります。もちろん幸田地域猫の会の例会にも出ております。

委員 周知はどのような方法でしていますか。

団体 周知はあらゆることをしました。公的には松戸市の広報まつどに載せました。団体登録していますので、市を通して市内の施設にチラシを配架しました。知り合いに頼み込んで自治会で回覧していただきました。地域の野良猫に困っているマンションの方々と知り合い、その方にチラシを配りました。新松戸駅前の掲示板にどうしても載せたくて、人の伝を辿って営業に行って載せていただきました。スーパーに出向き、無料ということで2件ほど掲示させていただきました。ポスティグをしました。知り合い全部に声を掛けました。

委員 私はどちらかという猫が好きですが、世の中にはどうしても猫が嫌いだという人もいます。そのような方々に対してどう啓発をしていくのか教えてください。

団体 好き嫌いという個人の志向に関わることは前面には出さず、地域の環境問題である、つまり好きな人も嫌いな人も猫がいなくなってほしいのが共通しているので、その一点で協力できませんか、とお話しています。あとは、諦めないことです。今回、猫嫌いな人も結構来ていただきました。理屈は通っていますから、嫌いな方でも、減るなら良い、殺すわけにはいかないというところで合点していただければ活動への理解を得られると考えます。

シニア世代生き生き地域資源マップ作り事業

(団体名 ほっとする街を考える会 k i n a r i)

委員 社会資源とは、そのマップと捉えてよろしいのでしょうか。

団体 資源は口コミ情報のようなものです。こちらにコミュニティカフェがある、バリアフリー、子どもに優しい、座敷がある等、そのような口コミ情報を資源と

表現しています。

- 委員 マップを一緒に作っていくことによって人がつながっていくという内容がよくわかりました。作ったマップはどのように役立つのでしょうか。
- 団体 A3サイズくらいの紙に印刷して、地域の方に配っていこうと思っています。自分のまちの良さを再発見してもらえれば良いです。
- 委員 たとえば町会・自治会単位の回覧板に入れる等をお考えですか。
- 団体 そのようなところで配っていただくのが理想的なので、今後働きかけていければと思います。
- 委員 保育所、学校単位での配布も良いのではないのでしょうか。
- 団体 はい。
- 委員 「コミュニティカフェ ChoshiYa」がこのイベントの開催場所として提案書に書いてありますが、その場所には無いと思いますがいかがですか。
- 団体 同じ場所で月曜から金曜日までは別のカフェ、土日にはコミュニティカフェ ChoshiYa になります。
- 委員 わかりました。わかりづらいので、とても大事なところかと思えます。
あと、そのA3サイズくらいでマップが出来たとして、500部印刷するということですが、地域の方々にマップを利用していただくことを考えたら、500部では少ないのではないですか。プロセスももちろんコミュニティ活性化につながりますが、出来上がったものをどのように使っていくのかという展開が私達の期待するところでは、作るだけで終わってしまうような活動はよくあるのです。ですから、そうではない、それを使って次にどのように活性化につながっていくのかということを示していただきたいです。何枚配るかというのは活動の意気込みだと私は思います。500部では、金ヶ作小学校、金ヶ作中学校に配ったらもう終わりですよ。もう少し、展開の仕方をご検討いただくと、もっと良い活動になると思いました。
- 会長 自分達がそれぞれ持っている足元情報を持ち寄って、地図という形で見える化していくという話で、コミュニティというか人と人の絆を良くしていくには良い入り口だと思います。その中でどのような人に集まってもらいたいのか、声掛けの仕方、巻き込み方がよく伝わってこないのが、今どのようにお考えなのかお教えてください。
- 団体 今年はシニア世代となっているのですが、段階を踏んで来年は子育て世代とか段階踏んで行こうと思っています。50~60代の方を対象にしているの、近所の方に来ていただければと思っています。
私達は仕事しているので、不定期になってしまうのですがコミュニティカフェを週末に開けておまして、取り立てた活動はしていないのですが、地域の方々が少しずつ立ち寄ってくれるようになってきています。その方々はどちらかと

いうとリタイア世代が多いので、まず第1回目はリタイア世代ということで考えていました。その方々への声掛けと、まつど市民活動サポートセンターの「まつどみらい会議」等での宣伝もします。地域の方々、古くから住んでいる方々にも声掛けをしていきたいです。ポスターを市の公共施設等で掲示していきたいと思っています。

会長 確認ですが、金ヶ作の地区の人達を巻き込んでいるということですね。そうなると、しっかりと良い人間関係を作って、怪しい、危ないと思われぬように、「あそこは良さそう」と思われるような関係性を今からしっかり作り始めると、それまでにいろいろな情報が集まってくると期待したいところです。

委員 地域のつながりが無いということで、集まる場を作ろうということなのでしょうが、そこで何か目的があるわけではないのでしょうか。

団体 コミュニティカフェの活動のことでしょうか。今のところは気軽に立ち寄っていただけるということを目指しています。今はどちらかというふうらっと立ち寄って、日々の生活や、仕事等のちょっとした愚痴を言ったり、いろいろな情報を逆に持って来ていただいたり、地域のことをお話ししていただいたりしています。夏には「まち」をテーマにしたブックトークを開催しました。今後はそのようなもう少しわかりやすい催しもしていきたいと思っています。

委員 近隣のコミュニティカフェとの交流や連携等、日常の活動の中でされているのですか。

団体 シェアハウスの方々がいろいろなイベントに参加されていて、その時によくお会いするので、コミュニケーションを取ったりしています。また、講座等にお邪魔したりしています。

こども福祉フェスタ事業

(団体名 Familink)

委員 予算書にボランティアスタッフ50人とありますが、具体的にどのように集めているのでしょうか。50人集まる見通しがありますか。

団体 我々代表の中のほとんどの者が療法士になっております。松戸市のリハビリステーション連絡会という組織が立ち上がりましたので、そちらに人員を出していただくように了承は取り付けているところです。あとは訪問看護、在宅に入っていらっしゃる看護師にも協力を得られると考えております。少なくとも準備は協力していただけるのではないかと考えているところです。

委員 障害を持っている子ども達の専門家の方々がこのグループを作られたということですが、この会にご自身に関わるようになったきっかけがあればお聞かせください。

団体 私自身も、お子さんの自宅にお伺いしてリハビリをするという仕事を当時して

いました。お子さん達をお預かりする場所が無いということで 2 年前に組織を立ち上げ、実際にお預かりしたりしているところなのですが、家族で一緒にどこかに出かけて行く、まずは近所の公園に行くのも精神的にハードルがある、生活全般にさまざまなハードルがあること、場所を作ったことでさらにさまざまな障害があることを知り、実際の勤務の中では出来ないことを団体でやってみようということになりました。

委員 福祉フェスタという新しい切り口ということで、松戸市内にある、たとえば看護学部を持っている聖徳大学や、私立の看護学校、あるいは聖徳大学にも介護福祉等の養成機関がありますので、そのような所とリンクして公募していただき、ボランティア育成あるいはボランティアの経験を伝えていただくと広がっていくと思いますが、連携は考えていらっしゃいますか。

団体 企画を考えた時点で、対象が最重度と言われるようなお子さんで、かなり特殊な生活と言いますか、より細部のことまでわかった方々がボランティアとして参加していただくことが必要だということまでの考えしか持っていませんでしたので、公募するときはそちらにも声をかけさせていただきます。

委員 フェスタをやるということ、他の会場を借りて人を集める話なのですが、どのくらいの人数を集めるかについて、どう考えていますか。

団体 市内の手帳を持つお子さんが 341 名いらっしゃるということで、その中でも重度のお子さんは 80 名はいらっしゃるということがわかっていますので、少なくとも半数は参加いただけるようなものと考えております。40 名参加の場合、ご家族も必ず一緒に参加していただくこととなりますので、少なくとも 150 名は超えるような形になるだろうと見込んでおります。

会長 今回の提案は遊びではなく福祉機器の展示ということによろしいですか。

団体 いえ、福祉機器等を使って遊ぶということを考えております。

会長 では、会場はどちらを考えていますか。

団体 今のところはふれあい 22 か、森のホールの会議室を数箇所、上手く行けば森のホールの外の広場等を使わせてもらえればと考えております。

会長 予算を見ますと、企業ブース出展料が、1 企業 3,000 円ということで安いのではないですか。もっと高くても良い気がします。メッセージ性の強い取り組みについては多分企業もしっかりとお金を出すような気がします。その辺りの目論見はいかがですか。

団体 実は八千代市でキッズフェスタという形で前年度から始まったものがあり、そちらの方で企業や団体が出展されていたので、どのような形で出展されているかを調査しましたら、出展料がゼロということでした。理事会の中でも考えたところで、全国的に有名な形でやっているところは数十万円単位の出展料というケースもありますが、これが妥当かどうかというのは確かに難しいところだ

と思っています。

子供の居場所からの発信による地域ネットワーク構築事業

(団体名 さくら広場の会)

委員 部屋の賃貸料等はどうしているのか、また1階が中華料理屋で、その3階ということですが、高齢者の方への配慮やエレベーターの有無等、どのようになっていますか。

現在1日にどのくらいの方がいらしているのか教えてください。

団体 賃料についてですが、1人300円なので、夏休み等は賃料を支払っていただけるくらいの子どもが来てくれているのですが、実はまだまだ難しく、始めるときに知人で支援金を下さった方がいましたので、そこから少しずつ使っているのが現状です。小学生もなかなか忙しいので、今は学習塾代わりに行けるような英語のサークルを作ったりと、付加価値があるとお母さん達も子どもたちを寄越してくださるので、ただの居場所として必要な子と一緒にできる形を模索していますが、まだまだ利用料で家賃を全部賄うのは難しいです。

エレベーターが無いので、高齢者はやはり体操が出来るくらいの方に限られてしまうのが悩みではあります。

今は平均すると1日5~6人の利用があります。また不定期ですがワークショップをやっていますので、その際は20人くらいの参加があります。

委員 会員制ではないので、日によっては利用者が少なかったり多かったりということですが、対応する方の人数は、どんな人数でも1人なのか、多いと思われる土曜日等は2人になるとか、対応はどのように考えていますか。

団体 基本的には私1人のことが多く、夏休みはボランティアの方々が少し来てくださったりしているので、今後はもう少し来てくれる子が増えるようであれば考えていきたいと思っております。

委員 数字的に、高齢者の話が出ていないというところをお聞きしたいのと、それから開催されているのは毎日でしょうか。

団体 毎日開催しています。

実績は全て小学生だけになりまして、夏休みは非常に沢山来ていただきました。現在の利用は小学生のみです。高齢者の利用は今現在無く、子どもが来る時間しか賃貸している所も使っていませんので、昼間に高齢者の方にコミュニティスペースとして使ってほしいです。また子どもが来ている時にも高齢者の方に来てもらえるように日々努力しているところです。

委員 事業計画書に「親/子供たち、地域住民(特に高齢者と商店街)の交流を図り、ネットワークを形成」とあるのですが、5~6人の時も20人の時も1人で看るということはやはり危険ですし、それこそ時間のある高齢の方、高齢と言っても3

階まで上がれる方ですから、何とか上手い手立てを考えて、増員出来るようになったら良いと思います。

- 団体 少しずつボランティアの方々が来てくださっていますが、まだまだ足りないの
でそのように出来るよう努力していきます。
- 委員 やはり子どもの居場所づくりは大きな問題になっていると思います。その中で、
市のキッズルーム事業が最近拡大してきていると思いますので、そこの棲み
分けはどのようになっているのか教えてください。
- 団体 元々私がこのさくら広場の会を作ったことをしようと思ったきっかけが、夏休みに長時間子どもたちが行く所が無いこと、お弁当を持って行って
長時間いられる、良い子のチャイムの後までいられる場が必要だと思ったこと
です。また、働いているお母さん達や、パートで賃金が少ないお母さん達も 1
ヶ月学童に入れると1万円かかるので、数時間で良いという声も聞こえました。
松戸市内でやっている放課後児童クラブ等では足りないと思ったのがきっかけ
でしたので、やはり 300 円で気軽に来られる、夏休みもずっといられるという
のが、受け入れていただいている部分であると考えています。
- 委員 貴会が借りているスペースの広さ、部屋数を教えてくださいませんか。
- 団体 6畳が2部屋くらいの12畳の部屋と、6畳の畳の部屋、キッチンがあります。
- 委員 ワンルームで全体を見渡せるというわけではないので、1人では大変だと思います。
ボランティア育成につなげていただけたら一番良いと思います。やは
り、3階ということで少し目を離れた際に、階段付近で怪我をすることが無い
とも限らないので、安全性の確保をお願いします。

食を通じての多世代交流事業

(団体名 小金ほのぼの食堂の会)

- 委員 食堂は予約制ではないですね。そうすると、この日は何人集まって、子ども
が何人で大人が何人かわからない中で料理を用意するというので、ある程度
予測をして用意しているのか、どのように工夫していますか。
- 団体 もちろん予約制ではないので何人来るかはわかりません。初めのうちは、チラ
シには30人分と書いていましたが、実際の料理は50人分くらい作ってありま
した。自主的に参加、協力いただける方が多く、食堂を開催していく中で食
事が無くなったらその場で追加で料理を作ってくださいたりしています。多い時
には98名の方に来ていただいたこともあり、その時はてんでご舞いでした。来
ていただいた方に、「ご飯が無くてごめんなさい」とは言いたくないので、絶対
に来てくださった方々にはたくさん食べてもらえるように多めに準備をしてお
ります。
- 委員 ご苦労が忍ばれます。私を感じたのは、思った以上に大人の方が多いというこ

とです。お子さんについてきた親というパターンが多いのでしょうか。一般の方の年齢構成を教えてください。

団体 はい、食堂は月に 2 回行っており、場所は町会の会館で行っているものと、市民センターで行っているものがあります。場所によって来る方々の年齢層が少し違うのですが、1人で来るお子さんももちろんいますし、子どもと両親で来てくださる方もいます。高齢者の方は、1人の方、独居の方が来ることもあります。全体で見ますと、町会の会館で開催する場合は小学生以下の子ども達が多いです。市民センターの場合は市民センターが小学校のすぐ前にあって、近くにあるということもあるかもしれませんが、小学生が多く、市民センターの会場が広いということもあり、一般の方々、年配の方々がよくお見えになります。

委員 冒頭に「路上生活者のグループの要請もあり」と仰ったと思ったのですが、実際に多世代食堂として開催した場合に何割くらいの方が路上生活者の方なのでしょうか。

団体 冒頭の路上生活者という話については、路上生活者を支援する団体の方から、近所の方々も交えて外でお祭りをやりたい、その中で食事の提供をしたい、食事の提供について、子ども食堂で何か出来ないかという話があり、今回初めて実施しました。普段の開催の際に路上生活者が来ているかどうかははっきりとはわかりませんが、スタッフの半数が民生委員で構成されています。民生委員が担当している方に食堂に来ていただいたり、いらした方と食堂で話す中で、行政につないだという事例もあります。

委員 土日の昼と平日の夜の開催ということで、曜日によってお子さん、高齢者の来場状況が開催場所によって違うというお話がありましたが、夜の開催時の苦勞を教えてください。たとえば人員、民生委員やスタッフの手配の問題。また、利用料が大人 300 円、子ども 100 円ということですが、収支のバランスはいかがですか。野菜は地域の農家からということですが、食材提供はあるのでしょうか。

団体 当初は、土日の昼間開催していましたが、利用者から昼間だけでなく夜にも開催してほしいという要望があり、平日の夜も開催しています。もちろんスタッフは大変なこともあるかもしれませんが、私自身平日夜に毎回協力していただき、スタッフも楽しくやっていますので、大変ではありますが楽しくやっています。

費用についてですが、地域の方々から野菜をいただいたり、スタッフが自分の家で自分で食材を買って作ってきて持ち込んでくださったりすることもあります。費用について一番大変なのは、今のところは市民センターや町会での会場費の支払いです。

音楽活動による「心の支え」事業

(団体名 リラの友・松戸)

- 委員 設立が平成 19 年と書かれていますので、10 年くらいこのような活動を継続されて今回申請されたというのは、きっかけと言いますか、なぜ今回申請をされたのかお伺いしたいです。
- 団体 私も助成を受けたほうが良いのか否か、まだ七分三分くらいです。助成を受けないほうが自由に出来るのではないかと考えています。会員の中にもやめたほうが良いと言う人もいます。一番の申請理由は、我々はいろいろな所に行きまますが、わからないことが多いのです。その方面の、たとえば市役所の何課かはわかりませんが、その方面に詳しい方とコンタクトが直に取れば、ものすごくやりやすいと思っていることが一番の理由です。
- 委員 やりやすいというのは、たとえばその福祉施設を紹介する等ですか。
- 団体 そうではなく、そちらのシステムが一体どのようになっているのかということです。職員の方は一生懸命やっているのはものすごくよくわかるのです。
- 委員 どの職員ですか。市役所の。施設の。
- 団体 現場の職員です。たとえばデイサービスのようなものでしたら、毎日ドライバーの方やいろいろとお世話をする方が一生懸命なのはわかるのです。ただ我々はどうしてもイベントという立場になると、その施設の偉い方と話すことがあり、言いたいことはたくさんあるのですが、率直に申し上げまして、この人がいなくて若い人達がいろいろな企画を知れば、もっと良いアイデアが出来るのに、私もやりやすいのに、と思うことが多々あります。
- 委員 ではもう 1 点、予算の中で寄付金 7 万円が計上されていますが、これは誰からどんな風に寄付金という形で受けているのでしょうか。
- 団体 何らかの伝手でいただくことが多いのです。高齢の方に寄付をいただくことが多いのです。あまりお断りしてもかえって失礼ということもあり、ありがたく、今後のため、来年のためにということで計上させていただきました。
- 委員 予め読んでいた事業計画書と今の説明とは多少ギャップがあり、プレゼンテーションを聞く前は、いろいゝな施設で演奏する、コンサートを開催する事業だと認識していたのですが、今の話ですと主に歌う音楽会、その場に合わせて演奏していくということですか。
- 団体 そうでもありません。
- 委員 スケジュール表を見ますと結構演奏会がありますよね。そういう演奏会はどのような趣旨でやっているのでしょうか。
- 団体 たとえば普通にコンサートを開催する場合、3,000 円か 5,000 円くらいの入場料を取る、プロの演奏家の演奏会です。時間は長くても 30 分、それ以上は聞く方も大変ですので、時間的には短いのですが、それが限度として、その後、その

場の雰囲気に合わせて二次会のような場を設けています。

委員 事業計画書に、高齢者の人生の最後に向き合う覚悟でその心に寄り添っていける音楽と書いてありますね。やはり一人ひとり音楽の好みがありますし、皆で歌うのが好きな人も居れば、そうでない方もいらっしゃる。最初の時に男性と女性の音程の違い等を仰ってましたが、音楽をその場その場で切り替えていらっしゃるのですか。

団体 できればそのようにしたいのですが、施設によっては指定があります。

委員 予め依頼者から指定されることがあるのですか。

団体 満更無視は出来ません。仰ることは我々の課題でして、たとえば、ある所では、先月は「ふるさと」や「みかんの花咲く丘」を皆で歌ったといいます。別の所に行っても皆同じです。決まりきったものでは一人ひとりが決して満足できないと思います。我々はそれに対応できる、できれば対応していきたいと思っています。

委員 いろいろな活動を地元で地道に広げていらっしゃるということはわかりましたが、予算の中で外部演奏家と芸能人の謝礼というものがあり、逆にこれだけ幅広く地元で音楽活動を展開されていて、なおかつ外部を呼んで盛り上げようというのは何か意図があるのですか。

団体 特段意味は無いのですが、たとえばこの写真の方をご存知の方はいらっしゃいますか。私の知り合いと言えは知り合いなのですが、スコットランド民謡を訳して、2~3年前にNHKでそれが取り上げられました。たとえばこれが外部の人間です。それよりも内容だと思えます。

世代を超えた交流ができる地域コミュニティの場をつくる事業

(団体名 明地区こあら食堂の会)

委員 こあら食堂という名前になり、子どもも大人も多世代でということですが、何か仕掛けがないと交流が生まれないと思いますので、交流を促すような方法を考えていますか。

目標に1回あたり30名とありますが、各日大体どれくらい集まったか、過去の実績を教えてください。

予算書に検便の項目が無かったのですがどうなっていますか。

団体 仕掛けというところですが、仰るとおり、「ご飯を食べられます」という言葉だけでは来にくいということがありましたので、たとえばマジックをやっていたいたり、我々はボランティアなので謝礼はお支払いすることは出来ないため、本当にボランティアでやったださる方、たとえば健康推進員が紙芝居をやってくれたり、地元で活動している方が竹とんぼの作り方を教えてくれたり、科学の実験をやってくれたり、食べながら一緒に遊ぼうという形で実施してい

ます。

実績については、結構波があり、少ないと十数名の時もありますし、多い時で30、40名くらいです。過去最多記録は約60名で、子どもと年配の方が来てくださって、料理もそこまで用意していなかったのが、慌てて作り直して何とか全員に提供することができました。

検便については、しっかりと実施しているのですが、予算書から抜けていました。定期的に、スタッフで食事に関わる人間は全て実施しています。

委員 これだけのことをやるのは大変だと思います。月1回というのはかなり負担というかいっぱいいっぱいなのでしょう。また、毎回来る方もいらっしゃるのですか。

団体 毎回必ず来る方は何人かいらっしゃいます。リピーターの方々が友達をたまに連れてきたりという形で輪が広がっていますが、基本的に来る方は毎回楽しみに来てくれて、次回のメニューは何か等お声がけいただくこともあるので、やりがいを感じています。

会長 始めて1年経つということですが、地元の自治会との関係や、そちらからの評判はいかがですか。

団体 当初は、新しいことを始めるということで、ふれあい会食会と同じではないか等いろいろな声がありました。継続していると皆さん気にしてくれるようになり、何人来たのか、どのような子が来たのか、子どもはどのくらい来たのか等声をかけていただいたり、様子を見に来てくれたりしています。回数を重ねていくうちに町会の掲示板に掲示させてもらえたり、一部の町会で回覧板を回してくれたりというご協力をいただくようになりました。また町会の子ども会で余ったお菓子を子ども食堂に提供いただくこともあります。やはり回数を重ねて継続していくことによって、徐々に町会の信頼を得ることができているのではないかと思います。ちなみに毎回協力者を掲載させていただいているのですが、町会名を協力者欄に載せても良いと言ってもらえたりして、町会との信頼関係が構築されてきたのではないかと考えています。

委員 会場が松戸新田第一町会の集会所や、松戸新田東町会の集会所ということですが、こちらには調理をする場所はあるのでしょうか。また食材は、地域の方々、農家、あるいは商店、市場等、そのような所からの定期的な援助、ご理解というような広がりについてはいかがでしょうか。

団体 開催会場は松戸新田第一町会の集会所と、その隣の松戸新田東町会の集会所ですが、両方ともキッチン施設はあります。ただ、松戸新田第一町会の集会所は火気厳禁とのことで、スタッフが当日早起きして家で調理し、車で会場まで持って行き、提供しています。松戸新田東町会は火気が使えるのでその場で調理しています。

食材の提供に関しては、無償でいただく立場上定期的にとというのは難しい所ではあるのですが、たとえば松戸新田東町会で開催する際は最寄り駅である稔台駅の商店街の方々が、集会所でやるならということで唐揚げ等を30人、40人分持ってきてくださったり、農家の方々が持ってきてくださったりしています。松戸新田第一町会でやる際は料理店の方がケーキを持ってきてくれたりしています。

(3) 平成30年度市民活動助成事業プレゼンテーション(ステップアップ助成)

「認知症に備える」為の啓発活動事業

(団体名 介護・認知症の家族と歩む会・松戸)

会 長 今回事業提案に至った問題意識が今のプレゼンテーションでよくわかりました。肝となる方は地域パートナーということで、地域パートナーになるためのワークショップ等、いろいろと提案されていますが、具体的にどのような形になっていくのでしょうか。

団 体 まず我々がプログラムとして持っているのが「かがみ遊び」と「宝山探し」です。「かがみ遊び」は、持っている潜在意識に気づくプログラムです。「宝山探し」は、あまり好きではないと感じている人を好きになるプログラムです。私は本来はボランティアという言葉が好きではないのですが、一緒に泣いたり笑ったりしよう、それにはお友達になってもらえないということで地域パートナーというネーミングにしました。

会 長 「かがみ遊び」、「宝山探し」等のやり方を含めて、相手と向き合ってやり取りしていくための力を養っていくということですね。地域パートナーを修了された方は、その当事者、その家族とどのように出会っていくのでしょうか。そもそも周りにいる人に地域パートナーになってもらうのか、あるいはこういった問題意識、関心を持った人が地域パートナーになって、自分がおっせかいする相手を見つけるのか、その辺りの順序がよくわからないので教えてください。

団 体 2つあり、1つは今松戸市でも実践中のおしゃべり広場です。それは、認知症等の目的は作らず、集まった人でお茶を飲みながら世間話をするというもので、その中からお友達的な関係が出来てきています。かつて認知症や介護等で苦労された方が手伝ってくれると声をかけていただくのですが、その方々におしゃべり広場に遊びに来てください、もしくは自分の近所に介護に悩んでいる人がいたら、挨拶や「おしゃべり広場に一緒に行きませんか」と声をかけていただきたいとお願いしています。毎回来ていただける方、お友達を連れて来てくれる方もいます。その場で友達になることは難しいのですが、ストレスは解消されていると見受けられます。先日も、ルールがあるわけではないのですが皆様飴やお煎餅を持ち寄ったり、おしゃべり広場の後に他の方と遊びに行ったり、

食事に一緒に行ったりということが少しずつ増えてきました。

委員 とも心強い活動だと思います。いろいろな所に出張してこの相談会を開いているという点が凄いなと思うのですが、私たちの団体でも多世代交流拠点というものを千葉市で持っています。毎日開けているのですが、その中で認知症サポーター養成講座等も開いたりしてカフェを毎月実施しているのですが、参加者はご近所ではなく、わざわざ車で遠くからいらっしゃるという地域性があります。そんな中、皆様がいろいろな場所に出かけて行くというのがとても良いと思いました。

認知症サポーターは市でも制度的に進めていると思いますが、今回ご提案の地域パートナーというところが、少し言葉の上で何か交差するようなことがあるので、地域パートナーがどのようなことをするのがはっきりすれば、他の方にお伝えする時には良いと思いました。

団体 介護の前線にいる方々が一番こだわるのは、認知症という言葉、サポーター、サポート、支援するというのを一番嫌うのです。そこで、我々は「一緒に怒ろうよ」ということまで提案しています。今我々が一番困っているのは、その辺を誤解され、暴力を振るう方が結構多いことです。今もシェルターに1人女性を入れてあります。つい最近、その方とは別の方ですが、身内同士の争いで警察に逮捕してもらったことがありました。ご相談を受けていると、相談する相手を探す親戚もいます。ですからある意味我々も覚悟しています。最寄りの警察に身辺警護をお願いしたこともあります。それで、サポーターという言葉はやめることにしました。

委員 いろいろな形で情報過多になっていて誤解が生じているという話は本当に切実だと思います。その中でおせっかいの活動をしていただく方々をつないでいくことが大切です。人の話を聞く場を設定していただいているのはありがたい話だと思っていますが、先程暴力の問題も出ましたが、そのような情報あるいは様々な相談の深刻な内容を、市、警察等、いろいろな所と連携しないと問題は解決しないというところまで追い詰められてしまっているケースも沢山あると思います。皆様の団体とネットワークでつながっている外部団体との協力関係というのはいかがですか。

団体 保護司、成年後見の団体、私も実はメンバーに入っています。役所という話が出ましたが、役所に我々、シェルターのことを一切喋りません。担当者が替わった時にどこかに漏れてしまうからです。今回も私達のネットワークの中でやっています。一番困るのは窓口が無いことです。ですから、パートナーという個人のネットワークに行くしかないのです。実は2年前に、他の団体にオープンにした時点でシェルターが全部ばれてしまい、今はもう1対1です。ですが、いろいろな団体が違う意味で応援してくれています。それがオープンにネット

ワークになっているところもあります。

5 閉会